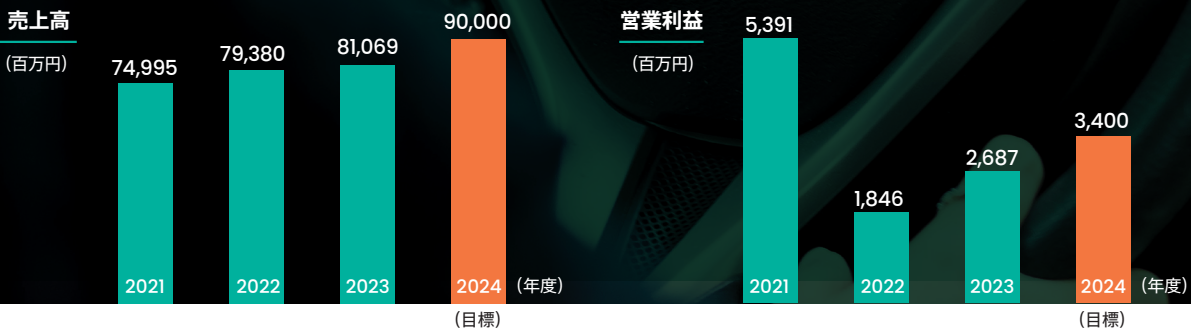


有機顔料を出発点とした
色彩と機能性の技術追求

色材・機能材関連事業の実績の推移(2024年2月現在)



色材・機能材関連事業におけるSWOT分析

	《プラス要因》	《マイナス要因》
内部環境	S強み - 分散加工技術、粒子・界面制御技術、合成技術をベースにした、素材からの製品開発が可能 - 顔料合成から製品までの一貫した開発・生産体制	W弱み - 一部の製品群に偏った収益構造 - 顔料・プラスチック用着色剤事業において、グローバル大手メーカーと比較して規模が小さい
外部環境	O機会 - 再生可能エネルギーの拡大 - 電気自動車の普及 - 環境対応製品のニーズ拡大	T脅威 - デジタル化加速による印刷インキ用顔料の需要減少 - 廃プラスチック問題など環境意識の高まりに伴うプラスチック製品の需要減少

分類	主な製品	主な用途
汎用化成品	汎用顔料、顔料分散体	印刷インキ、自動車用塗料、プラスチック用着色剤など
高機能化成品	高機能顔料、カラーフィルタ用ペースト	フラットパネルディスプレイ (FPD) カラーフィルタ用レジスト、デジタル印刷用インキ
表示材料	カラーレジスト	FPD カラーフィルタ、イメージセンサーなど
プラスチック用着色剤	カラーマスターバッチ、機能性マスターバッチ、機能性コンパウンド	プラスチック容器、自動車内外装、OA機器、電化製品など
開発品ほか	CNT分散体、インクジェットインキ、記録材塗料	リチウムイオン電池、広告看板、ラベル、データストレージ用磁気テープなど

マネジメントメッセージ

トーヨーカラー株式会社
代表取締役社長
岡市 秀樹



>> 2023年度の振り返り

色材・機能材関連事業では、色材設計技術と分散技術を組み合わせることで、さまざまな分野に機能性材料を展開しています。

液晶カラーフィルタ用材料では、液晶パネルメーカーでの稼働率が時季による変動があったものの、中国での拡販や台湾でのシェア向上が進み、通期では堅調な出荷となりました。一方でPC向けなどの中小型ディスプレイの回復の遅れや、大型ディスプレイの価格下落により収益は低下しました。

プラスチック用着色剤は、米国の自動車向け、中国の太陽電池向けが好調だったものの、国内では消費者の買い控えで容器用が低調に推移し、海外ではOA機器用の需要が減少しました。インクジェットインキは、海外市場での在庫調整の影響がありましたが、後半は回復に向かい増収増益となりました。

車載用リチウムイオン電池材料は、米国や欧州での供給を本格化させ販売を伸ばしており、米国と中国では今後の需要増に備えた設備増強を進めました。

>> 中期的戦略と2024年度の重点施策

リチウムイオン電池用CNT分散体を最注力事業に位置付けています。これまでに米国・中国を中心に相次いで採用が内定していますが、次の3年間で4極5拠点での供給体制を強化し、収益の柱とすべく事業拡大を図ります。また、今後の環境を見据えた性能・コスト面での競争力強化に注力しながら、並行して全固体電池などの次世代技術の開発にも取り組んでいきます。

液晶カラーフィルタ用材料では、中国現地パートナーを活用した地産地消ビジネスの具体化を進め、ディスプレイ市場の中国シフトを好機としたシェアと収益の最大化を図ります。さらに、センサーなどの次世代技術への用途拡大に向けた高付加価値化も推進します。

プラスチック用着色剤では、環境対応などの機能性製品を軸とした製品ポートフォリオの転換を図り、国内事業の構造改革を進めます。インクジェットインキでは、中国におけるラベル市場の成長を取り込み、シェア拡大を図るとともに、差別化技術の開発に取り組めます。

>> 色材・機能材関連事業が提供する感性価値

私は当事業の感性価値を、「歴史や過去の概念に捉われることなく、異なる意見や知見、技術、アイデアを、強い意志で化学反応させることによって生み出される課題解決の成果」と定義しています。

この実現のためには、社員一人ひとりが自己の強みや弱みを認識したうえで、得意なことを得意なやり方で、お客様や社会の課題を解決していくことになります。それを実践するためには、変化に対応する頭と体の反射神経と、周りを巻き込む影響力の、両方を兼ね備えた社員が増えることが重要だと思います。

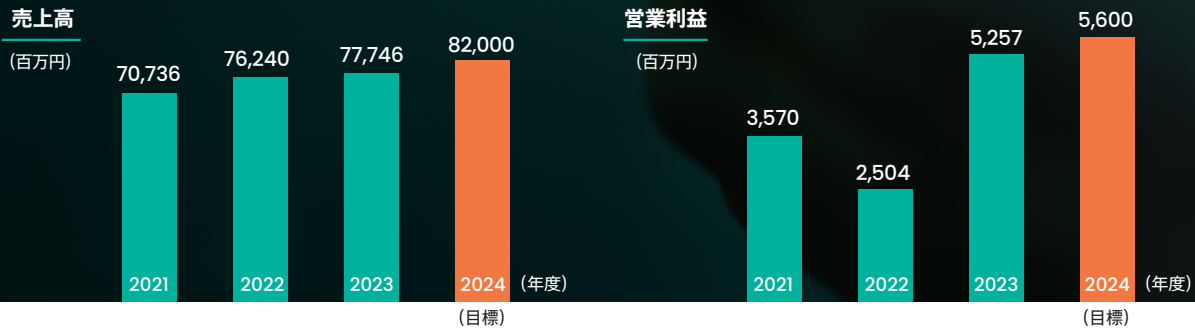
色は、人によって見え方や感じ方が異なり、無限の広がりを持っています。感性に響く価値も同様に、人によって違うはずです。違う感性が集まり、そこから新たな感性が生まれる、これが我々の目指す姿です。

この事業をやっていないとしたら、今から始めますか?という質問に「YES」と答えられるものに資源を集中し、各事業を未来に夢のある形にしていけることが私の仕事であると考えています。トーヨーカラーはこのような観点で社会に貢献していく集団でありたいと思います。

ポリマー・塗加工
関連事業

ポリマーの高機能化を軸に
多様な市場に価値を提供

ポリマー・塗加工関連事業の実績の推移(2024年2月現在)



ポリマー・塗加工関連事業におけるSWOT分析

《プラス要因》		《マイナス要因》	
内部環境	S 〈強み〉	・精密ポリマー合成、分散安定化、精密塗工・加工などにおける高度な技術力 ・素材(ポリマー)自製から接着剤化、塗加工までの一貫生産	
	W 〈弱み〉	・原材料価格変動の影響を受けやすい事業収益構造 ・欧米大手メーカーと比較して規模、供給力が小さい	
外部環境	O 〈機会〉	・産業構造の変化に伴う新市場の拡大(半導体、EV、二次電池、バイオ) ・世界的な環境志向の高まりによる環境対応製品の需要拡大	
	T 〈脅威〉	・環境規制の強化や社会要請の高まり(脱プラスチック、リサイクル、溶剤排出規制、CO ₂ 排出規制) ・原材料価格の高騰、原材料の調達困難化	

分類	主な製品	主な用途
接着剤・粘着剤	粘着剤(感圧性接着剤)、ラミネート接着剤、ホットメルト(熱溶融型接着剤)	フィルム包材、フラットパネルディスプレイ(FPD)、PETボトル胴巻きラベルなど
塗工材料	接着テープ、エレクトロニクス関連機能性フィルム材料、マーキングフィルム	両面テープ、エレクトロニクス製品、看板・屋内外装飾など
塗料・樹脂	製缶塗料、樹脂、ハードコート	飲料缶、食缶、ドラム缶、建築用塗料、機能性フィルム、FPDなど
開発品ほか	メディカル製品、天然材料	貼付型医薬品、食品、飼料など

マネジメントメッセージ

>>
2023年度の振り返り

ポリマー・塗加工関連事業では、ポリマー設計技術と塗加工技術を用い、素材から開発できる強みを活かして先端の製品を送り出しています。

エレクトロニクス市場は2022年来、世界的に市況の低迷が続いています。塗工材料は、スマートフォン向けの機能性フィルムが需要期の販売は回復したものの通期では減少となり、液晶パネル向けも市況の調整が続き低調に推移しました。

粘着剤は、国内ではラベル用やディスプレイ用が低調でしたが、米国やインド、中国では販売が拡大しました。接着剤は、国内外で包装用が消費の冷え込みで伸び悩みましたが、工業用はリチウムイオン電池向けの拡販もあり海外で好調に推移しました。

缶用塗料は、国内では顧客での稼働が伸び悩み、海外でも漁獲量の低迷などで食缶用が低調でしたが、トルコでの拡販やタイでの現地塗料メーカーThai Eurocoat社買収による事業拡大が進みました。

このほか、コストダウンの取り組みや価格改定の効果もあり、全体としては増収増益になりました。

>>
中期的戦略と2024年度の重点施策

グローバルNo.1製品をいくつも持つ接着剤メーカーへの成長を目指しています。そのためにも、海外における事業拡大と差別化技術の開発を推進していきます。

粘着剤は、特にインド、中国、北米でパートナーとのアライアンスも視野に入れた生産能力増強を行い、各市場のニーズに合った高付加価値製品を展開することで事業拡大を図ります。接着剤は、東南アジア、インドにおける包装用の成長を取り込むほか、EV化に伴い需要が拡大するリチウムイオン電池用途をはじめとした工業用の製品群を拡大させます。環境対応ニーズが高まる缶用塗料については、ビスフェノールAを意図的に含まないBPA-NI (Not Intent) 塗料を軸に海外展開を進めます。

半導体や次世代ディスプレイ市場では製品構造が変わることで、新たなニーズが生まれています。川越製造所に新設したポリマーパイロット棟も活用し、新規樹脂や塗工材料の開発を進め、次世代半導体の後工程市場向けなど周辺材料での採用拡大を目指します。

>>
ポリマー・塗加工関連事業が提供する感性価値

日常生活でも製品やサービスに触れたときに、予想や期待を超え驚くことがあります。私はそれを「感性価値」と捉えています。これは大まかに、製品そのものから生まれるハード要素と、製品を提供する過程で感じるソフト要素、の2つに分けられると考えています。

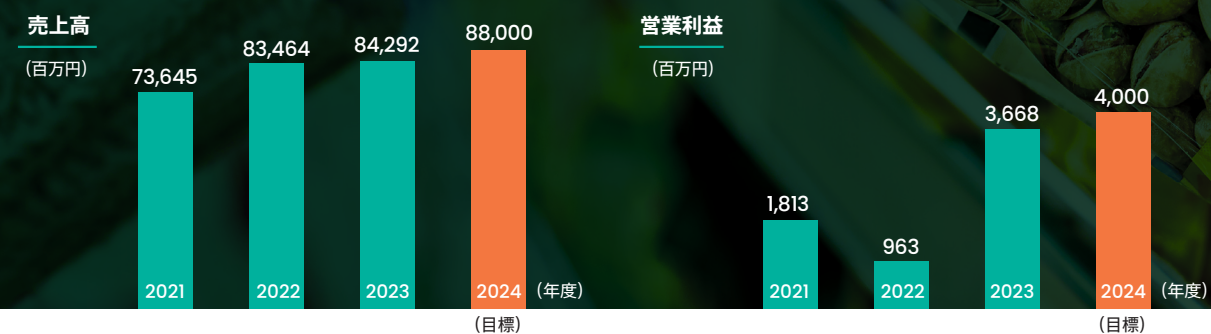
ハード要素はまさにメーカーの本分です。BtoBの当社製品では一般の方に直接感じていただける場面は少ないのですが、数年前にお客様と共同で開発した泡立ち缶用の塗料や、糊残りが少ないPETボトルのラベル用の接着剤は、BtoBtoCの形で感性価値として多くの人に伝わった例だと思っています。

ソフト要素は、人びとの知恵やコミュニケーションから生み出されるもので、例えばきめ細やかな営業サービス、ニーズに応える技術、信頼できる品質保証、効率的なデリバリーなど、これらを組織力を通じて迅速に提供することで、価値に変換できると考えています。このソフト要素をさらに磨くために、私たちはデジタルツールも活用し、人と知識が一層深くつながる工夫を続けています。今後もお客様の期待を超える感性価値を生み出し、心豊かな未来づくりに挑戦していきます。

パッケージ 関連事業

ライフサイクル全体を見据えた 環境対応パッケージ材料を提供

パッケージ関連事業の実績の推移(2024年2月現在)



パッケージ関連事業におけるSWOT分析

《プラス要因》		《マイナス要因》	
内部環境	S 〈強み〉 - 顔料・樹脂・インキ・製版技術・ラミネート接着剤を設計・開発する技術力 - 素材から製品まで一貫した生産技術と品質管理力 - パッケージ開発に必要な印刷設備とパッケージ性能評価技術	W 〈弱み〉 - 原材料価格高騰の影響を受けやすく、迅速な価格改定が困難 - 欧米市場でのプレゼンスが低い	
	O 〈機会〉 - 新興国の人口増加とそれに伴うパッケージ需要全体の伸長の継続 - SDGsや循環型経済に対応するための、紙化・モノマテリアル化(リサイクル可能)への変革		
外部環境		T 〈脅威〉 SDGs、循環型経済への対応としての脱インキ、脱接着剤の流れ	

分類	主な製品	主な用途
リキッドインキ	グラビアインキ、フレキシインキ	軟包装材、建装材、段ボール、ラベル、紙器など
グラビア機器・製版	グラビア機器、グラビア・フレキシ製版	グラビア・フレキシ印刷、エレクトロニクス向け精密製版

マネジメントメッセージ

東洋インキ株式会社
代表取締役社長

安田 秀樹



>> 2023年度の振り返り

パッケージ関連事業は、食品包装印刷に使用されるリキッドインキ事業が中心となっており、世界的な環境意識の高まりにより、水性・無溶剤・バイオマスなどさまざまな角度による環境対応製品を提供しています。また、高品質なプラスチックリサイクルを実現するための洗浄・脱墨・異材質分離・再生などのプロセスや生産機などの開発を目的として業界を跨いだ共同開発契約を締結するなど、リサイクルシステム構築に向けた取り組みを進めています。

2023年度は、日本国内では、ペットフードや土産物用の包装材需要が堅調に推移しましたが、物価上昇による消費者の買い控えで食品用は伸び悩みました。また、段ボール用も猛暑や価格高騰で青果物向けなどの需要が減少し、低調でした。海外においては、インド、東南アジア、トルコでの需要が底堅く、販売も堅調に推移しましたが、中国では消費の低迷で食品包装用が低調でした。

一方、国内外で原料価格高騰に対する生産面でのコストダウンや価格改定に加え、拡販を進めた結果、利益改善が進み増収増益となりました。

>> 中期的戦略と2024年度の重点施策

市場の成長が期待できる海外において、サステナビリティ貢献製品を軸としたシェア向上と、中長期的にはリサイクルシステム構築による市場創出を進めます。

グループのほかの品種と比べると食品包装は景気に左右されづらく、不況下でも比較的安定した出荷が見込まれ、さらに海外では人口増加に伴って市場が拡大していくと考えています。インドや東南アジアなどで市場成長を確実に取り込みつつ、水性インキなどの環境対応製品を先行させた市場展開によるシェア拡大に注力します。また、中国では営業・技術体制強化による拡販、トルコでは新工場の稼働開始など、増強される供給能力を活かしてグローバルな事業拡大を図っていきます。

同時に、使用済みの包装材料をゴミにせず、再資源化するためのリサイクルシステム実現に向けた取り組みを推進します。業界の垣根を越えて、パートナーの皆様とさまざまな形で協業することで、循環型社会の実現に貢献するとともに、市場創出による事業拡大を目指します。

>> パッケージ関連事業が提供する感性価値

当社は「お客様の期待を超える価値」を提供し続けることができる会社を目指しています。当社の提供する製品やサービスといったソリューションに対して、お客様の期待を超える「いいね！」をいただける、驚きを感じていただけることが「感性価値」であると考えています。

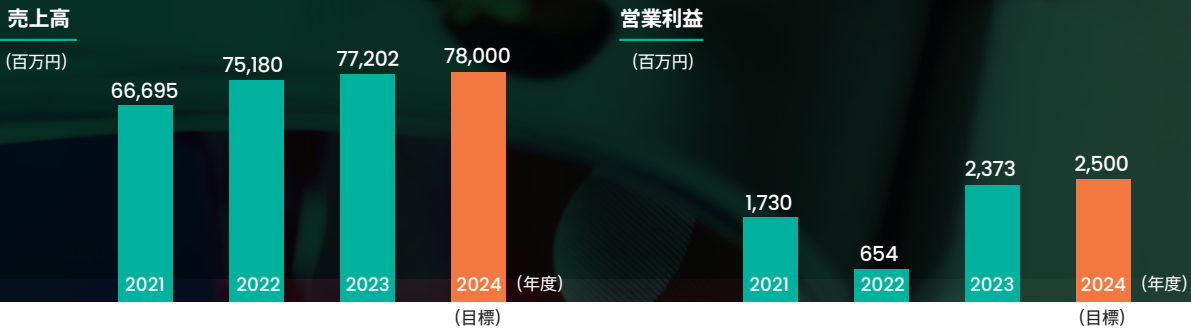
パッケージ関連事業においては、従来からのバイオマスインキや水性インキご提案などの環境対応に加えて、マイクロプラスチックごみ問題やCO₂排出量削減など、社会やお客様が抱える環境課題の解決に貢献するソリューションの提案に注力していきます。例えば、紙化およびプラスチック減容化、リサイクル促進のモノマテリアル化による包材の機能低下を補完するバリアコート剤、耐熱コート剤、耐水・耐油コート剤などの機能性コート剤のラインナップを充実させていきます。

インキには包材に意匠性を与えるという重要な機能がありますが、包材のリサイクル時には不純物となるインキの除去が課題となってきます。意匠性というインキ本来の機能を損なわずにマテリアルリサイクルを可能にする脱墨・リサイクルプロセス技術をパートナー企業の皆様とともに創りだし、生活者の皆様にも循環型社会を感じていただける「感動」をもたらしていきたいと考えます。

印刷・情報
関連事業

環境対応・高機能化で
高付加価値印刷市場に展開

印刷・情報関連事業の実績の推移(2024年2月現在)



印刷・情報関連事業におけるSWOT分析

	《プラス要因》	《マイナス要因》
内部環境	S<強み> ・処方技術、評価技術と設備 ・環境対応製品など豊富なラインナップ ・オフ輪、UV硬化型インキ国内商業印刷市場シェアNo.1 ・顔料・樹脂の二大原料を自社生産できる	W<弱み> ・デジタル化・人口減少に伴う需要減少に対して事業インフラの規模が大きすぎる
外部環境	O<機会> ・脱石化資源・脱プラのトレンドに伴う紙パッケージ拡大の動き ・情報通信技術の活用によるグローバル展開の加速	T<脅威> ・デジタル化や人口減少による国内印刷業界縮小とインキ需要減少の継続 ・印刷需要のインクジェット方式への一部移行によるオフセット需要の縮小

分類	主な製品	主な用途
オフセットインキ	オフセットインキ、新聞インキ、金属インキ、UV硬化型インキ	チラシ、書籍、雑誌、新聞、シール・ラベル、紙器、飲料缶、食缶など
印刷材料・機器	オフセット印刷材料、印刷検査装置	オフセット製版、紙面検査など
開発品ほか	スクリーンインキ、その他	パッケージ、自動車用インストールメントパネル、プリンテッド・エレクトロニクス材料など

マネジメントメッセージ

東洋インキ株式会社
代表取締役社長

安田 秀樹



>>
2023年度の振り返り

印刷・情報関連事業では、主に書籍や雑誌、チラシなどの商業印刷用途、紙器や飲料缶などの容器用途に使用する印刷インキを扱っています。

コロナ禍の影響でデジタル化が一気に進み、商業印刷市場が加速度的に縮小する中、国内のエリア販売会社6社を統合集約したり、同業他社との生産アライアンスを推進するなどの構造改革を行い、徹底した合理化を進めてきましたが、一定の効果が表れてきています。

2023年度は、日本国内では、情報系印刷市場の構造的な縮小が継続し、チラシや広告、出版向けが低調でしたが、紙器パッケージ向けUV硬化型インキは拡販による効果もあり堅調に推移しました。海外では、中国での不動産市況の悪化や輸出低迷による景気の弱含みもあり販売が低調に推移しましたが、紙器パッケージ向けに従来のフィルムラミネートに代替する機能性コーティング剤の販売が伸長し、増収増益となりました。

>>
中期的戦略と2024年度の重点施策

日本国内の情報系印刷市場はペーパーレス、デジタル化の進行により、今後も縮小を続ける見通しで、構造改革への取り組みは引き続き最重要課題の一つと認識しています。生産や物流面でのアライアンスなどサプライチェーンの効率化をこれまで以上に強力に推し進め、収益改善に努めます。

一方で、包装関連向け機能性インキについては、世界的な脱プラスチックの潮流のなか、紙器パッケージ市場の拡大が期待されます。国内については紙器用UV硬化型インキのほか、機能性コーティング材の拡販、海外についてはこれらに加え、紙器用枚葉インキ、製缶用金属インキの積極的な展開を進めることで、グローバルでの事業ポートフォリオの変革を進めます。

また、既存事業のグローバルSCM体制構築とともに、これまでに培った材料設計、インキ技術を活かした、新たな市場開拓を進めます。顧客、エリア特性に合った新製品展開を進め、一層の価値向上に取り組んでいきます。

>>
印刷・情報関連事業が提供する感性価値

印刷・情報関連事業においては、商業印刷事業および紙器パッケージやラベル市場向けに、CO₂排出量削減や高騰するエネルギーコストの削減につながるソリューションを提供していきます。例えば、既存のUVランプを減灯しても硬化性に優れる、または省エネルギーであるUV-LEDでの硬化性が良好なUV製品の開発・実用化に注力していきます。これらは当社独自の樹脂設計や硬化性コントロール技術の活用によって実現が可能となります。

また従来とは異なる市場・分野に対して、インキ事業で培ってきたコア技術の積極的な展開を図っていきます。導電材料というコア素材を活かしたセンサー事業では、インキビジネスに留まらず、外部パートナー企業との協業によってデバイスとしてのワンストップソリューションを提供できる体制を構築していきます。また、超低反射や特定波長を透過する赤外線透過など光学制御材料を活用して、エレクトロニクス市場やセンシング分野への応用展開も進めていきます。車の自動運転実現への貢献など、快適な暮らしや未来づくりにチャレンジしていきます。